

5

自昭和十九年二月
至昭和二十年八月

大東亞戰爭衛生史編纂系資料

第九野戰補充隊
獨立混成第八十四旅團



1662

昭和十九年三月十日
昭和二十年八月十五日
大東亞戰爭衛生史編纂資料

兵團行動概要

(一) 一般状況

第九野戦補充隊 昭和十九年二月滿洲國龍江省齊々哈爾ニ於テ編成
セラレ同時ニ中支那派遣ニ依リ中支那九江附近ニ轉進シ同地警備ニ任
シ次テ昭和二十年三月第九野戦補充隊ニ復歸シ同要員ヲ基幹トスル
獨ニ混成第一十四旅團ヲ編成セラレ引續キ九江附近ニ警備ニ任シ終戦ニ
至ル

(二) 第九野戦補充隊概要

昭和十九年二月特臨編第三七號臨時編成下令セラレ第三方面軍編成
担任ニ依リ滿洲國龍江省齊々哈爾ニ於テ補充隊長陸軍少將渡辺勝
ニ下同月二十日第九野戦補充隊ニ編成完結ス

二月下旬更ニ増加要員編入セラレ三月上旬増加要員ヲ以テ假大隊ヲ編成ス
第九野戦補充隊編成左表ノ如シ

第九野戰補充隊編成表

基幹部隊

假編成部隊

第九野戰補充隊本部

歩兵第四大隊

歩兵第一大隊

歩兵第五大隊

歩兵第二大隊

歩兵第六大隊

歩兵第三大隊

歩兵第七大隊

砲兵隊

通信隊

工兵隊

兵團、編成完結ト共ニ中支那派遣ニ依リ二月下旬齊々哈爾爾出發
山海關、南京ヲ經テ三月上旬中支那江西省九江ニ進駐シ増加
部隊ハ三月中旬齊々哈爾爾出發本隊ヲ追及三月下旬本隊到着
シ第六十八師團又第三十四師團ト九江地區ノ警備ヲ交代シ警備
地域ノ治安維持ニ任シ尚九武南潯陸路兵站線ノ確保ヲ圖ルト
共ニ京漢作戰又相桂作戰裏樊作戰ニ兵團ノ一部ヲ夫々出動ヒシメタリ

昭和十三年七月八日

第九野戰補充隊基幹部隊ノ幹部大部在滿召集者ニテ增加部隊
ノ幹部ハ殆ント東部軍ノ召集者ヲ以テ充當シ兵員ハ在滿部隊ヨリ
轉屬編入セシメラル

衛生部員ハ大部東部軍ノ召集者トス

主要事項左ノ如シ

1. 昭和十九年六月日高大尉ヲ長トスル集成約一ケ大隊ヲ編成シ武漢

地區ニ派遣シ武漢防衛司令官ノ指揮下ニ入ラシメ武漢地區警備

並ニ襄樊作戦ニ參加セシム

2. 昭和十九年七月第四大隊ヲ基幹トスル約一ケ大隊ヲ編成シ湘桂作戦

ニ參加セシム

3. 昭和十九年五月京漢作戦ニ砲兵隊及工兵隊二部ヲ參加セシム

4. 昭和十九年五月工兵隊ノ一部ヲ湘桂作戦ニ參加セシム

5. 昭和十九年五月補充隊長渡辺少將東部軍司令部附ニ補セラ

レ後任補充隊長陸軍少將中尾小六着任ス

6 昭和十九年五月第五師團第四十師團及第六十八師團ニ將校以下
約一三〇〇名轉屬セシム

7 昭和十九年六月九月土月ノ三次ニ亘リ補充要員入隊ス

8 昭和十九年十月第五大隊ヲ基幹トスル約一ヶ大隊ヲ編成シ第五野戰
補充隊長ノ指揮下ニ入ラシム

9 昭和十九年十月ヨリ櫻集團要員初年兵ノ教育ヲ担任シ九江

又大冶地區ニ於テ教育ヲ實施シ昭和二十年三月下旬教育終了

原隊追及前進セシム

10 昭和二十年一月九武公路陸路兵站線ヲ設定沿線主要地兵站
機關ヲ配置シ所在警備隊兵站業務ヲ担任ス

(三) 獨立混成第八師團ノ概要

昭和二十年三月二十日軍令陸甲第十八號ニ依リ第九野戰補充隊ハ
復歸シ新ニ旅團長陸軍少將中尾小六ノ下獨立混成第八師團
ヲ編成完結ス

昭和二十一年三月二十日

陸軍

獨之混成第八旅團編成表左表、如シ

部	隊	名	部	隊	名
旅團司令部			獨之步兵第五〇三大隊		
獨之步兵第四九九大隊			旅團砲兵隊		
第五〇〇大隊			旅團工兵隊		
第五〇一大隊			旅團通信隊		
第五〇二大隊					

兵團第九野戰補充隊ニ引續キ九江附近ニ位置シ同地ノ警備ヲ
 担任シ爾來終戰迄警備地域治安維持並重毒物資ノ蒐集補
 給ニ任シ尚九武南潯兩公路兵站線及揚子江航行確保ヲ期スル
 共ニ緊急訓練ニ實施ニ努メ次期行動準備中終戰ニ至ル

主要事項左ノ如シ

獨之混成第八旅團ノ編成ト共ニ且巽ニ武漢方面ニ派遣シアル
 日高大隊並ニ第九野戰補充隊第五大隊及湘桂作戰ニ參加中ノ

石井
志村
石井

第四大隊ハ夫々第百三十一師團獨立混成第八旅團又第百三十一師團編成基幹部隊トシテ轉屬セシメラル

2. 昭和二十年三月獨立混成第八旅團編成要員トシテ第百三十一師團又第百四師團ヨリ符枚以下約一九〇〇名轉屬ス

3. 昭和二十年四月第八西兵站地區隊ノ管內移駐ニ依リ九武公路沿線各警備隊ノ担任シテタル兵站業務ヲ同部隊ニ移讓シタルモ同部隊移駐ニ依リ再ヒ同業務ヲ繼承ス

4. 昭和二十年五月江副大尉ヲ大隊長トスル約半ヶ大隊ヲ編成シ岳州方面ニ派遣ス

5. 昭和二十年七月第二十一號作戦軍隊ノ管內通過ニ伴ヒ宿營給養衛生ヲ担任シ南潯公路沿線ニ兵站機關ヲ配置スルト共ニ檢疫所 患者集合所ヲ設置セリ

第九師團補充隊又獨立混成第八旅團配置圖並附圖

（昭和二十年七月）

(四) 隸下部隊

1. 第九野戰補充隊本部 (獨之混成第八十四旅團司令部)

第九野戰補充隊本部、昭和十九年五月下旬中支那派遣ニ依リ

滿洲國龍江省齊齊哈爾出發、三月上旬中支那江西省九江ニ

進駐同地ニ位置シ九江附近ノ警備ニ任シ、昭和二十年五月二十日

獨之混成第八十四旅團司令部編成引續キ九江ニ位置シ警備ニ任セリ

2. 第九野戰補充隊步兵第一大隊 (獨之步兵第四百九十九大隊)

昭和十九年二月下旬中支那派遣ニ依リ齊齊哈爾出發、三月上旬

九江ニ到着ト共ニ湖北省黃梅縣ニ進駐同地附近ノ警備ニ

任シ、昭和二十年三月二十日獨之步兵第四百九十九大隊ヲ編成引續

キ同地附近ノ警備及揚子江ノ治安確保ニ任セリ

3. 第九野戰補充隊步兵第二大隊 (獨之步兵第五大隊)

昭和十九年二月下旬中支那派遣ニ依リ齊齊哈爾出發、四月下旬

江西省若溪ニ進駐同地附近ノ警備ニ任シ、昭和二十年三月

二十日獨之歩兵第五大隊ヲ編成引續キ同地附近ノ警備ニ任スル
ト共ニ九武又南潯兩公路兵站線ノ治安確保ニ任セリ

4. 第九野戰補充隊歩兵第三大隊(獨之歩兵第五大隊)

昭和十九年五月下旬中支那派遣ニ依リ齊ハ爾出發三月中旬
中支那湖北省陽新ニ進駐同地附近ノ警備ニ任シアリシコ五
月下旬第七大隊ニ警備ヲ移讓シ大冶ニ移駐同地附近ノ警備
ニ任シ昭和二十年三月二十日獨之歩兵第五大隊ヲ編成引續キ大冶
ニ位置シアリタルカ五月鉄山舖ニ移駐依然大冶附近ノ警備ニ
任スルト共ニ九武公路兵站線又揚子江ノ治安確保ニ任セリ

5. 第九野戰補充隊砲兵隊(獨之砲兵隊)

中支那派遣ト共ニ九武ニ位置シ同地附近ノ警備ニ任スルト共ニ京漢
作戰ニ其一部ヲ参加セシメリ

昭和二十年三月二十日獨之砲兵隊五旅團砲兵隊ヲ編成シ引續キ
任務續行セリ

昭十九・七・大陽

第九野戰補充隊工兵隊(獨混成隊)西掖團工兵隊

中支那派遣ト共ニ九江ニ位置シ同地附近ノ警備ニ任スルト共ニ京漢

作戰又湘桂作戰ニ其一部ヲ参加セシム

昭和二十年三月二十日獨混成隊ハ西掖團工兵隊ヲ編成シ(費キ)

前任務ヲ續行セリ

第九野戰補充隊歩兵第四大隊(假編成部隊)

三月下旬中支那派遣ト共ニ九江ニ位置シ一部ヲ大冶地區ニ派遣シ

同地附近ノ警備ニ任シアリタルヲ昭和十九年七月同部隊ヲ基幹

トスル約一ケ大隊ヲ編成湘桂作戰ニ参加中昭和二十年三月二十日

第百三十一師團基幹部隊トシテ轉属ス

第九野戰補充隊歩兵第五大隊(假編成部隊)

三月下旬中支那派遣ト共ニ九江ニ位置シ一部ヲ鄂城ニ派遣シ大冶

地區警備隊長指揮下ニ於テ夫々同地附近ノ警備ニ任シアリタルカ

同年十月同部隊ヲ基幹トスル約一ケ大隊ヲ編成武漢地區ニ

派遣シ第五野戰補充隊長指揮下ニ於テ武漢地區ノ警備ニ任シアリタルカ 昭和二十年五月二十日 獨逸混成隊十三旅團基幹部隊トシテ轉屬ス

第九野戰補充隊步兵第六大隊(假編成部隊)(獨逸步兵第五百三大隊)

昭和九年三月下旬中支那派遣ト共ニ九江ニ位置シ九江附近ノ

警備ニ任シ 昭和二十年五月二十日 獨逸步兵第五百三大隊ヲ編成引續キ

任務續行セリ

第十野戰補充隊步兵第七大隊(假編成部隊)(獨逸步兵第五百三大隊)

昭和十九年三月下旬中支那派遣ト共ニ九江ニ位置シ一部ヲ箬溪地區

ニ派遣シ同地警備隊長ノ指揮下ニ於テ各々警備ニ任シタルカ

五月下旬湖北省陽新ニ前進步兵第三大隊ト警備ヲ交代シ

更ニ昭和二十年五月二十日 獨逸步兵第五百三大隊ヲ編成引續任務

續行セリ

第十野戰補充隊通信隊(假編成部隊)(獨逸混成隊十三旅團通信隊)

(昭和十三年十一月八日)

昭和十九年三月下旬中支那派遣ト共ニ九五ニ位置シ又ニ昭和二十年三月

二十日獨混成第一十四旅團通信隊ヲ編成ス

(五)指揮下部隊

ノ野戰高射砲第七五六隊第一、二中隊ハ昭和十九年五月兵團指揮
下ニ入ラシメラレ第一中隊ハ石灰窯ニ第二中隊ハ九五ニ位置シ任務續行
中終戦ニ至ル

之第三師團訓練隊ハ昭和十九年四月第六十一師團訓練隊ハ昭和

十九年四月夫々兵團ノ指揮下ニ入ラシメラレ第六十一師團訓練隊ハ
昭和二十年七月本隊進出前ニ復歸セリ
昭和二十年九月原所屬ニ復歸セリ

3.石灰窯患者療養所

昭和十九年八月九日陸軍病院ニ於テ編成セラレ同時ニ兵團指揮
下ニ入ラシメラレ石灰窯ニ於テ患者療養所ヲ開設シ終戦ト共ニ昭和
二十年九月閉鎖シ現所屬ニ復歸セリ

三衛生業務大要

一 行便

(一) 衛生業務一般状況

衛生機関の配置状況

(1) 患者療養所の設置

兵團の高度分散配置ト共ニ僻遠地域ニ駐屯セル部隊ノ軍既設
 收療機関ニ対スル患者ノ後送困難ナル状況ニ鑑ミテ司指ホヨリ
 左記ノ如ク所在部隊ヲシテ患者療養所ヲ開設セシメ患者ノ收療
 ニ任セシム尚療養所要員ハ部隊附衛生部員ヲシテ兼務セシメリ

患者療養所編成及設置區分表左ノ如シ

開設部隊	開設地	名	編	年月日	年月日	軍	階級	下士官	女	計
第一大隊	湖北省黃梅	黃梅患者療養所	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一
第二大隊	江西省著溪	著溪患者療養所	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一
第三大隊	湖北省大冶	大冶患者療養所	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一	昭一

備考一 黃梅著溪患者療養所ハ在隊入院取扱部隊指定ト共ニ閉鎖シテ
 患者療養所ニ在隊患者療養所設置ニ依リ閉鎖ス

(四) 石灰窯患者療養所設置

通過軍隊ノ増加ニ伴ヒ昭和十九年八月九江陸軍病院ニ於テ縮成
セラレ兵團ノ指揮下ニ於テ石灰窯ニ開設シ通過軍隊及所任部隊
ノ患者ヲ收容シアタルカ終戦ト共ニ閉鎖ス

石灰窯患者療養所縮成表左ノ如シ

派遣部隊	軍醫衛生部	兵部	計	下士官	兵	計	合計
第九野戦補充隊	一	六	七	一	一五	一六	二三
九江陸軍病院	二	四	二一	二七	一	一六	二七
計	三	四	二七	三四	一五	一六	五〇

備考 一初度整備器械ハ九江陸軍病院ヨリ差出ス

(イ) 在隊入院制度指定部隊

昭和十九年在隊入院制度ノ制定ト共ニ左記部隊ハ在隊入院

取扱部隊ニ指定セラル

指定部隊	駐屯地	指定年月	摘	委
	駐七地			

陸軍

步兵第一大隊 湖北省黃梅 昭和十九年十月 九江陸軍病院附屬トス	步兵第二大隊 江西省婺源	(二) 隊附衛生部員配置ノ状況	各部隊共部隊本部所在地又主要據点警備隊ニ牽隨將校ヲ配置シ醫務室ヲ開設シ合遣隊ハ哨ニ衛生下士官又ハ衛生兵ヲ配置シ所要ノ衛生材料ヲ常備シ傷病者ノ救護ニ遺憾ナキヲ期セリ	(ホ) 衛生勤務兵制度ノ設定	昭和十九年七月衛生勤務兵教育並ニ勤務規則ヲ制定シ兵ヲ概ネ一ヶ月以上教育訓練シ醫務室ハ合遣隊ハ哨ニ配置シ作戰討伐時ニ在リテハ患者收容(救護)班ニ充用セリ尚衛生材料ハ繡帶裏ニ準シ携行セシメ哨ハ合遣隊等ノ單獨勤務者ニ対シテハ普通藥消耗品ヲ常備セリ本制度ハ特ニ高度ノ分散配備ヲトヘル部隊ニ於テ良好ナル
---------------------------------	--------------	-----------------	---	----------------	--

一四四三三・七・大塚

効果ヲ收メリ

各部隊衛生勤務兵員数左表ノ如シ

部 隊員数 摘 要

歩兵大隊 二四 一般中隊各四機歩兵砲中隊各三通信隊二

砲兵隊 八一ヶ中隊 四

工兵隊 八ヶ

通信隊 二

備考 一、教育課目、衛生部兵教育規則附表第三ニ依リ實施ス

2. 一般衛生業務

兵團任務ノ特性並ニ部隊配備警備地域ノ衛生環境及將兵ノ素質等ノ状況ニ鑑ミ兵團ノ衛生業務ハ左記事項ニ重点ヲ指向シ之カ施策ノ徹底ヲ期セリ

- (イ) 健兵対策
- (ロ) 防疫防瘧ノ徹底

(一) 現地治療、徹底

(二) 衛生材料現地自活、徹底

(ホ) 衛生教育、徹底

(ハ) 防空対策

3. 作戦討伐ノ衛生業務

京漢襄樊湘桂作戦参加部隊及其他討伐部隊ニ部隊附

軍醫將校以下衛生部員ハ救護班ヲ編成参加シ戦傷患者救

護ニ遺憾ナキヲ期セリ

4. 兵站衛生業務

揚子江水路兵站九江又石炭釜又昭和三年一月九武公路陸路兵站

線ノ設定ニ依リ沿線警備隊兵站業務ヲ担任シ兵站路線主要

據真九江—瑞昌—陽新—大冶—鄂城兵站軍醫

將校ヲ配置シ醫務室ヲ設其ノ他ノ兵站ニ衛生下士官兵ヲ配置

シ兵站衛生ニ任セシムルト共ニ大休止地ニ湯浴ノ補給所ヲ設置

（昭和十三年七月）

兵站衛生ハ防疫防疫給水診療衛生施設整備等ニ重負ヲ指問シ
之ヲ指導徹底ヲ圖ルト共ニ患者收容班ヲ編成シ屢次ニ且リ各地兵
站ニ派遣シ患者又行軍不堪者ヲ收容セリ

昭和十九年八月頃ヨリ敵機ノ來襲激化シ揚子江ノ航行ハ極度
ニ制約ヲ受ケ陸路通過軍隊劇增ニ伴ヒ通過軍隊ノ患者又
行軍不堪者ハ長途行軍ニ依ル疲勞ト敵機跳梁下休養給養ノ
不備ト相俟ツテ頓ニ増加スルト共ニ各種傳染病亦多發スルニ至リタル

ハ遺憾トス

特ニ腸チフス「ハラチフス」發診チフス等ニ多發ヲ見ルニ至レルヲ以テ防
（檢）疫ヲ強化シ汚染部隊ノ停留隔離菌檢素衣並驅除
等ヲ實施シ尚施設整備給養ノ改善向テヲ圖リ九江大沼ノ
滞在地ニ入浴施設又被服器具ノ修理工場ヲ設置スル等遺憾

ナキヲ期セリ

昭和十九年七月第三十三號作戦軍隊管內通過ニ伴ヒ兵團ハ

宿營給養衛生ヲ担任シ南潯公路德安以北ニ兵站機關ヲ
配置シ尚德安及九江ニ檢疫所ヲ設定又德安ニ患者集會所ヲ
配置シ兵站衛生ノ萬全ヲ期セリ

5 櫻集團要員初年共教育隊衛生業務

兵團ハ昭和十九年度櫻集團要員初年共約四〇〇〇名ノ教育ヲ
担任シ昭和十九年十月間九江及大冶地區ニ於テ教育隊ヲ縮成シ
教育ヲ實施セリ

兵團ハ軍醫將校以下衛生部員ヲ該隊ニ配置シ衛生施策ノ徹
底ヲ圖レリ

九江教育隊ニ於テ昭和十九年十月要員到着時既ニ赤痢患者
發生蔓延シ患者約一三〇名ニ及ヒタルモ防疫ノ徹底ニ依リ十月中旬
概ニ終熄セリ更ニ十月下旬A型パラチフス患者發生蔓延シ
患者約一六〇名ニ達シタルモ防疫施策ノ徹底ニ依リ昭和二十年二月
終熄シ三月下旬行軍不堪者ヲ残置シ本隊追及武漢方面ニ前

進セリ

衛生諸規定制定

兵團衛生関係諸規定ヲ左ノ如ク制定セリ

區

分制定

月

日

要

傳染病豫防規定

昭一九一五年二月

結核豫防規定

昭一九一五年五月

特別訓練隊設置及教育関係規定

昭一九一六年六月

改正

衛生勤務教育及勤務関係規定

昭一九一六年六月

温瘧傳増健訓練隊規定

昭一九一九年九月

漢藥研究委員会規定

昭一九一九年十一月

増健訓練隊規定

昭一九一九年十一月

増健訓練隊規定

昭一九一九年十一月

三患者ノ状況

(一) 戦死傷者ノ発生ノ状況

陸

軍

戦死傷者、発生ハ附表第一ノ如ク昭和十九年度戦死七七名戦傷
 五二名ニシテ昭和二十年度ハ戦死六三名戦傷七三名ニ達セリ戦死傷者
 發生ノ大部ハ九州附近ノ警備期ニ於ケル發生ニシテ戦死一三七名
 戦傷一一〇名ニシテ相桂作戰又襄樊作戰參加部隊ニ於テハ戦
 死十三名戦傷二〇名ナリ

(二) 一般患者発生状況

一般患者発生附表第一ノ如ク昭和十九年度新患總數四七六名
 昭和二十年度六五〇五名ヲ算ス

主要疾病ハ兩年度共マラリア 十九年度 一三二名 首位ヲ占メ
 急性田月腸炎 十九年度 八一〇名 之ニ亞キ 脚氣 七五名 傳染病
 一一八名 結核 三四名 ナリ

風土的疾病又多發疾病ト認ムヘキモノナク 蠍咬傷
 蠍咬傷又狂犬病等數例ノ發生アリ
 (三) 診療状況

昭和二十三年・十一月・八日

診療、現地治療主義ヲ徹シ診療ノ合理化ヲ圖リ衛生機関（患者療養所設置及在隊入院制度ノ活用）及衛生部員ノ適正配置ト共ニ診療施設ノ整備創見工夫ニ依ル衛生材料現地自活衛生材料高度活用等ニ依リ診療ニ遺憾ナキヲ期セリ

四、患者後送ノ状況

兵團ハ患者輸送機関ヲ有セリルト共ニ高度ノ分散配備ト敵機ノ來襲ニ依リ揚子江ノ航行制約等ニ依リ患者ノ後送ハ極メテ困難ナリシモ患者療養所ノ設置在隊入院制度ノ活用等ニ依リ之ヲ緩和スルト共ニ相送汽船ノ利用等ニ依リ極力後送ニ努メ更ニ昭和二十年一月患者後送計畫ヲ策定シ計畫的後送ヲ實施セリ
各部隊ノ患者ハ概ネ九江陸軍療院及石炭窪患者療養所ニ後送シ石炭窪患者療養所ハ九江陸軍療院ニ轉送セシメリ
作戰討伐ニ際シテハ救護班ヲ編成セシメ又第線分哨及分遣隊ニ於テモ應用担架ヲ常備スル等傷病者ノ收療後送ニ萬全ヲ期セリ

五 衛生材料状況

衛生材料ノ補充隊於テ編成當初附表第三ノ如ク動員計画書ニ示サレアル定数ヲ整備セラルレモ假令編成各部隊何レモ携帶量ニミシテ昭和十九年十月醫務室備付用材料若干ヲ受領スル迄衛生業務ノ遂行ニ著シク困難ヲ來シタリ特ニ作戦討伐又ニ大隊ノ轉進ニ際シテ補充隊各部隊ヨリ廢極濾水機等ヲ之ニ交付シ出動セシメタル狀況ナリ

昭和二十年五月改竄ニ依リ獨之混成旅團ノ完結ヲ見ルヤ附表第三ノ如ク定数材料ノ遂次的ニ交付セラルレ藥物消耗品ノ補給亦円滑ニ妥員施セラレタリ

現地自活ニ付テハ將來衛生材料ノ補給杜絶等ヲ考慮シ各部隊ヲシテ藥種ノ採取並ニ調査開發ニ專念セシメ且ツ之ノ製藥ヲ實施シ自隊ノ治療用ニ當ラシメタリ
司令部於テハ自活工場ヲ設置シ硫黄浴劑多量ノ貯蓄ヲ行フ

昭和二十年七月六日

肝油ワセリン、アドノルペン未、肝臟未、驅虫剤タニナルペン未等ヲ大量ニ製藥シ各部隊ニ交付シ補給品ノ節用ニ勉メタリ

六 防疫ノ状況
(一) 軍防疫

兵團ハ昭和十九年五月傳染病豫防規定ヲ制定シ更ニ昭和二十年四月防疫対策ヲ策定シ防疫施策ノ徹底ヲ圖レリ

尚昭和二十年六月コレラノ防遏対策ヲ更ニ昭和二十年六月コレラノ防疫対策ヲ策定シコレラノ防疫ノ萬全ヲ期セリ

防疫ハ特ニ豫防防疫ニ徹シ防疫識能ノ向上ト共ニ個人衛生ノ確行徹底ヲ圖リ又衛生施設特ニ給水源、消毒所、炊事場、廁等ノ施設完備又防疫的ノ管理ノ徹底ヲ期シ尚防疫情報ノ蒐集等ニ依リ病源侵入防止ニ銳意努力セリ

傳染病患者發生ハ附表第一、如ク昭和十九年度ハ七〇名ニシテ其ノ主ナルモノ腸チフス、三七名、赤痢、三三名等ナリ

昭和二十年度ハ四九名ニシテ腸チフス二三名赤痢一四名「バラチフス」六名等ナリ

主ナル傳染病流行状況左ノ如シ

(イ)昭和十九年五月通信隊ニ腸チフス発生蔓延シ患者二八名又ヒルモ

六月終熄セリ

(ロ)昭和十九年六月歩兵第二大隊ニ於テ第一次補充要員入隊時赤痢

患者一名発生七月上旬終熄セリ原因ハ輸送間南京方面ニ於テ

ル感染系ト認メラル

(ハ)昭和十九年十月櫻集團要員初年兵九三發隊於テ初年兵

入隊直後赤痢患者発生蔓延シ患者約一三〇名ニ達シタルモ十月

中旬終熄ス原因ハ輸送間南京方面ニ於テ買喰等ニ依

ルモノト認メラル

更ニ同隊ニ於テ昭和十九年十月下旬A型バラチフス発生蔓延

シ患者約一六〇名ニ達シ昭和二十年一月概ネ終熄セリ

(昭和十三・七・大塚)

原因ハ買喰ニ依ルモノト認メラル

(三)昭和三年六月獨逸歩兵第百九十九大隊ニ腸チフス発生シ患者八名

ニ及ヒ七月終熄ス

(四)昭和十一年一月陸路兵站線ノ設定ニ伴ヒ通過軍隊ノ劇増ト共ニ

各種傳染病侵入ノ機會多ク通過軍隊間ニ於テ腸チフス

ハラチフス等多発セリ

兵團ハ通過軍隊ノ防(檢)疫ヲ強化徹底シ汚染部隊ノ停留

隔離消毒検査衣具靴除染等ヲ實施シ期スト共ニ防疫給水ヲ

徹底シ防疫ニ努メリ

五 地方防疫

地方防疫軍防疫ト相関性ニ鑑ミ地方行政機関又隣接圏外等

ニ対シ積極的指導援助ヲ圖ル其ノ機能的活動ヲ促スト共ニ各縣

ニ廣ク官民有力者ヲ以テ衛生防疫委員會ヲ結成シ地方防疫實踐

圏外トシテノ存在ヲ明確ニ專ラ都市ノ淨化防(檢)疫給水防疫

情報ノ蒐集予防疫線等ニ活用シ極メテ良果ヲ收メリ
主ナル地方傳染病發生狀況左ノ如シ

(1) 昭和二十年七月端昌縣下ニ流腦患者發生流行シ患者四〇名
ニ及ハリ

(2) 昭和二十年六月以降警察備管内各縣ニ左如ク瘧瘧流行セリ

發生地 別 患者數 摘

九江縣 二 六月發生ス

德安縣 (三七) 四月ヨリ七月頃トス

望子縣 (二六) 四月ヨリ七月頃トス

陽新縣 (三〇) 六月發生ス

備考一括弧ハ推定數ヲ示ス

(二) 防疫狀況

兵團駐屯地ハマラリアノ濃厚汚染地ニシテ地方住民ニ於テ蚊源
深ク侵染シ且多數ノ河川池沼濕地水田等散在シ瘧蚊ノ

昭和十三年・七・大野

好発地ニシテ兵員、現地ニ駐屯スルヤ、昭和十九年四月、昭和十九年度防瘧対策ヲ策定シ、更ニ昭和二十年四月、昭和二十年年度防瘧対策ヲ策定シ、夫々作命ヲ以テ達スルト共ニ屢次ニ且リ各部隊軍醫將校又防瘧工作班長、集合教育ヲ實施シ、施策ノ徹底ヲ圖リ、更ニ各部隊衛生下士官ノ集合教育ヲ實施シ、シヨラリア、疫癘検査ノ普及徹底ヲ

圖レリ

防瘧対策主要實施事項左ノ如シ

昭和十九年度

- (イ) 防瘧教育ノ徹底
- (ロ) 防瘧工作班ノ編成(中隊單位)
- (ハ) 瘧蚊發生源覆滅策ノ徹底
- (ニ) 瘧蚊刺整防止策ノ徹底
- (ホ) 予防服ノ確行(自六月間豫防薬ヲ服用セシム)
- (ヘ) 完全治癒ノ徹底

三三

原虫検査の徹底

昭和二十年度防瘧対策

防瘧施策の概ね前年度と大差なく前年度実績に鑑み特
冬季間の防瘧工作の強化に越冬蚊の補殺枯草散刈取
焼却等が實施徹底の期スト共撒布剤及び防蚊服薬等ノ
補給難に鑑み建設部ヨリ藥物ニ依仔ル防瘧施策即チ積極
的防瘧工作に刺蝮防止策(特ニ燻烟ノ徹底)ヲ最モ重視シ
施策ノ強化ヲ圖レリ尚防蚊資材(蚊帳金網等)ノ補給難
に鑑み愛護部用及代用品ノ活用ニ努メリ

マモリア患者発生状況

マモリア患者ノ発生ハ左表ノ如ク昭和十九年度一三二名ニ對シ昭和
二十年度一七六名ニ及ヘリ

原虫區分ハ三日熱二六八四名ニシテ最モ多ク熱帯熱二一三名
之ニ次キ四日熱ハ九三名ニ過キス

昭和二十一年七月八日

昭和十九年度ハ中文那派連隊一年度ニシテ且予防衣履益々依
リ患者ノ発生比較的尠ク概ネ六月頃ヨリ散発シ九月最盛高ニ
達セリ

昭和二十年年度ハ豫防衣履藥ノ補給ナキヲ以テ予防衣履ヲ密實施セス
且治療藥ノ不足等ニ依リ患者ノ發生者シク増加シ八月最盛高ニ
達セリ 臨床ニ殆ント大部ニ脾腫貧血ヲ認メ脚氣様症狀ヲ
呈シ又榮養障礙等ヲ來シ治療ニ相當長期ヲ要スルモノ尠カラズ
戦力減耗ノ重大素因ヲ示セリ

患者又原虫保有者ニ對シテハ給養ヲ良好ニ醫學的療法ト
相俟ツテ完全治療ノ促進ヲ圖トリ

各部隊共屢次ニ且リ全員ニ對シテ原虫檢索ヲ實施シ患者ノ
根絶ニ銳意努カセリ

マラリア患者表

年度	別	三	日	熱	四	日	熱	熱	摩	熱	計
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

七、健兵対策

(一) 特別訓練隊の状況

昭和三十九年度	一〇八三	五一	九三	一三二五
昭和三十九年度	一六〇三	四二	一三〇	一七六五
計	二六八六	九三	二一三	三〇九〇

昭和三十九年六月兵團將兵士六實ニ鑑ミ暫定的ニ各部隊ニ特別訓練隊ヲ設置セリ

同年十月特別訓練隊設置ニ教育ニ關スル規定ヲ制定シ西一的訓練ノ實施ヲ圖リ特ニ漸進的訓練ト給養休養ノ合理化依リ保育ノ適正ヲ期セリ

昭和三十九年十月日蓮子縣温塘傳温泉地ニ増健訓練隊ヲ設置シ更ニ昭和三十九年五月各部隊特別訓練隊ヲ廢止シ山下上増健訓練隊ヲ設置シ各部隊訓練兵ヲ入隊セシメ括訓練ヲ實施セリ各部隊訓練隊ノ状況

昭和三十九年七月八日

各部隊特別訓練隊設置並訓練兵縮入ノ状況左表ノ如シテ甲群一六五名（結核発病者素質者）乙群一〇六名（体力上弱者）ヲ縮入訓練シテ快復シ原隊復歸セシムル者ニ〇九名ノ成果ヲ收メリ

教育訓練ハ漸進的訓練ヲ重視シ逐次訓練ノ度ニ向上ナルニ適切ナル休養ノ附與及熱量豊富ナル給養ヲ動物性肉食ノ加給及強壯劑ノ加給等ニ依リ俾テ向上ヲ圖レリ

各部隊特別訓練隊状況表

部隊	設置地		縮入		原隊復歸		備考
	甲群	乙群	計	計	計	計	
歩兵第一大隊	一五	一	一六	一六	六		黄梅
獨歩第九大隊	三五	四二	七七	七七	六五		釜原
獨歩第五〇大隊	二二	一八	四〇	四〇	三三		大沼
獨歩第三二大隊	二〇	一二	三二	三二	二四		九江
獨歩第六大隊	三〇	一五	四五	四五	三八		九江
獨歩第七大隊	三一	二〇	五一	五一	三八		九江
獨歩第九大隊	二一	一〇	三一	三一	二八		九江

工兵隊九江	一五	八	二三	一六
計	一六五	一〇六	二七一	二〇九

之温塘傳增健訓練隊

温塘傳增健訓練隊ハ外傷後ノ機能障礙及慢性關節炎等ノ
 障礙ヲ有スル者ヲ編入シ温泉療法ヲ併用漸進的訓練依リ機
 能ノ快復ヲ圖リ俸位ノ向上ヲ期スルヲ主眼トシ隊設置以來四次ニ
 亘リ七四名ヲ入隊セシメ何レモ全ク快復シ原隊復歸セシムル成果
 ヲ收メ終戦ニ伴ヒ閉鎖ス

(1) 温塘傳增健訓練隊縮成表

區	人員	備	要
隊長 兵科將校	—	—	—
隊附 軍醫將校	—	—	—
兵科下士官	二	所任警備隊附軍醫將校 勤務トス	—

昭和二十一年三月六日

陸軍

衛生兵

計

五

回温塘傳增健訓練隊訓練兵編入状況

區	分	年	月	原隊	編入	人員	摘	要
第一	次	昭和十九年	三月	昭和二十年	三月	三三		
第二	次	昭和二十年	六月			一六	一名入院ス	
第三	次		八月			二一		
第四	次		八月			一四		
計						七四		

廬山增健訓練隊

各部隊特別訓練隊ヲ廢止シ兵團ニ於テ総合訓練ヲ實施シタメ
廬山增健訓練隊ヲ設置シ廬山高原地域ニ於テ地理的
氣象的感作効果ノ良導ニ依リ速ナル体カニ氣力ノ恢復ヲ圖
ルヲ主眼トシ各部隊特別訓練兵ヲ編入シ着々成果ヲ揚クンソテ

リナルカ終戦ニ伴ヒ閉鎖ス

尚廬山増健訓練隊ニ第百七十七兵站病院ト會議シ兵團入院者中諸症概シ快復シ病院ノ訓練班ニ編入セシムル程度ニ至ラハ退院セシメ廬山増健訓練隊ニ編入シテカノ快復ヲ圖レリ
廬山増健訓練隊編成表
廬山増健訓練隊編成表

(1) 廬山増健訓練隊編成表

區	人員	員	椅
隊長	兵科將校	一	收容定員
隊附	軍醫將校	一	八〇名
	兵科下士官	三	
	衛生下士官	一	
	衛生兵	七	
	計	七	

(2) 廬山増健訓練隊訓練兵編入状況

(續前頁・原東)

區	分編入年月	編入		計	後編入隊員		計
		甲群	乙群		甲群	乙群	
第一	昭和十九年五月	四八	二八	七六	六	二二	九八
第二	昭和十九年七月	三	二四	二七			二七
第三	昭和十九年八月	一	四	五	六	二二	二九
計		五二	四六	九八	六	二二	一二六

備考 一 本表中甲群ハ 諸検査成績素質者 乙群 体力上弱兵 又 院後ノ 衰弱者ノ 示ス

(一) 一般保育ノ 状況

第九師戦補充隊 編成當時ノ 兵員ハ 殆ント 現役兵ニシテ 僅カニ 一部 補充兵 短兵ノ 充て當ヒシ 状況ニシテ 素質 一般ニ 良好 且 關東軍ニ 於テ 訓練セラルル 兵ナリシモ 昭和十九年五月 以降 数次ニ 亘リ 他 兵團ニ 轉出シシ之ヲ 禁リ 昭和十九年度ハ 四次ニ 亘リ 各地ヨリ 補充員 入隊アリシモ 素質 極メテ 不良 殊ニ 結核性疾患 発病 素質者 著シク 多ク 更ニ 昭和二十年一月 獨之 鹿成 第一 旅團 編成 要員トシテ

第三十三師團及第四師團ノ武蔵及地味陸軍病院退院者將校
以下約一〇〇名兵團ニ轉屬セシメラルル等々備員一般ト云下ラ
示セリ

兵團ハ昭和十九年六月各部隊ニ特別訓練隊ヲ設置シ更ニ十月温
塘傳増健訓練隊ヲ昭和十九年五月廬山増健訓練隊ヲ設置シ
弱兵訓練ヲ實施スルト共ニ一般保育ヲ執テ昭和十九年六月健兵
対策ニ變更シ十月精神薄弱者ニ精神救済者對策要領策
定シ保育實施命令ニ依リ保育施策ノ徹底ヲ圖リ
殊ニ兵員素質ハ如ク如ク良好トララル 船沈ニ鑑ミ健兵対策ヲ
衛生業務ノ重要ニ指列シ各級幹部ノ保育實施熱意ノ向上揚ト
識能向上ニ各部隊附軍醫將校又衛生掛將校在合教育ヲ實
施シ保育策ノ徹底ヲ圖リモハ成果具現ニカケリ
精神救済者又精神薄弱者ニ特別訓練隊ニ入隊セシメス所屬
中隊ニ於テ適切ナル養護ヲ施セリ

(報告書・家來)

(三) 結核隊防状況

身体検査と体力検査と略痰検査等ヲ實施シ患者ヲ發見スル者ニ對シテ
 隔離ヲ期スルト共ニ隊防施設ノ整備ヲ圖リ保育策ノ徹底ト
 相俟ツテ予防ノ萬全ヲ期セリ

結核患者發生左表ノ如ク甚シク高率ヲ示シ兵員減耗ノ原因ト
 ナセリ

結核患者發生表

部隊別	病状	疑	計	病状	疑	計
獨逸隊(歩兵)	一	一	二	一	二	三
第四九九大隊	二	七	九	一	九	一〇
第五〇〇大隊	三	五	八	二	九	一一
第五〇一大隊	六	五	一一	二	九	一一
第五〇二大隊	三	六	九	八	四	一二
第五〇三大隊	三	二	五	九	三	一二
計						

砲兵隊	一八	五	二三	一〇	三	二二
工兵隊	一	一	二	三	六	九
通信隊	二		三	四	一	五
計	四六	三五	八一	五四	五六	一一〇

備考 一病次ハ部隊及病院ニ於テ病名決定セルモノヲ櫻上シ疑ハ
病名未定ヲ入院セシメ病名決定通報ニ接ヒサルモノヲ
計上ス

八宿營ハ状況
(一)宿舎ノ状況
各部隊駐屯地ノ宿舎ハ野戰建築物又ハ支那側ハ共營建築物及家
等ニシテ戰禍ニ依リ破損セルモノ多ク各部隊共營ヲ修復ニ努ムルト
共ニ附屬施設炊事場厠浴場給水排水除穢等ノ施設モ
現地資材ノ活用創意工夫ニ依リ整備ヲ圖ルモ尚長期宿營
ニ幾多ノ欠陥ヲ有シ衛生上良好トスルニ難ク營中ニ改善整備

(前頁奥・表裏)

二 院意留カセリ又防寒防暑防蚊蠅等ノ特殊設備ニ於テモ極力

完備ヲ圖レリ

(一) 給水ノ状況

九江及石炭室駐屯部隊ハ水道トリシモ九江上水道ハ昭和十九年
三月以降電力不足ニ依リ揚水ノ量減少シ時局給水ヲ實施シ一部
ハ井水河沼水ヲ使用スルノ止リナキニ至レリ

其他ノ各地駐屯部隊ハ井水河沼水ヲ使用スルノ状況ニシテ大部ハ

河沼水ニ依存セリ

河沼水ハ汚染セラルルノ機会多ク汚濁度上テ憂ヒセラルトコト甚カ

ラカルト共ニ雨天等ニハ著シク濁濁度増カセリ

各部隊共浄水補給ニ村ニ腐心シ簡易濾水機ノ設置井水ノ

掘鑿及揚水法ノ改善等ニ依リ給水ノ萬全ヲ期セリ

兵站機關ニ於テモ通過軍隊ニ對スル防護給水ニ努ムルト共ニ

兵站線各地區ニ揚水小補給所ヲ設置セリ

陸軍

(三) 被服状況

被服寝具ハ所定定数ヲ支給シ一般ニ程度良好且保清良好ニ保持セラレ衛生上特記スル事項ヲ認メス

被服寝具ノ補給類ニ鑑ミ受護部用保清命数ノ延長ニ努メ工場ノ整備強化シ補修ヲ徹底スルト共ニ着用軍靴並軍鞋等ノ製弁利用又現地資材開発活用ニ依リ現地自活ニ努メリ

(四) 糧食状況

主食ハ定量セ西見ノ給與ノ要員死シ來リタルモ昭和五年五月以降戦局ノ推移戦場ノ位置相ニ鑑ミ食生活ノ簡素化忍飢ヲ主眼トシ訓練ヲ長期頻回ニ実施セリ

本訓練期間ニ於テハ主食定量六ノ見ミレテ副食ノ單一化及救荒食物ノ利用等戦場給養ニ徹シ要員戰的演練ニ努メ成果

昇揚ヲ圖レリ

副食物資ノ定額ハ左表ニ依レルモ戦局ノ推移ト共ニ市井物價

(清符式・東京)

陸軍

漸次高騰シ定額給與著シ困難ヲ加ヘ数次ノ改訂ヲ行ヒタルモ尚
且緩和セラズ給養上憂慮セラルトモ少カラサル状況ニ鑑ミ兵團
ハ現地自活ヲ徹底シ蔬菜類ノ栽培養畜臭粉味噌糞油
等ノ加工製造及加味品ノ加工製造等々實施シ追送品ノ補給ニ
依リトナシ給養ノ改善向上ヲ圖リ熱量補給ニ遺憾ナラシム

副食代金定額表

期 間 定 額 摘 要

昭和十九年	七月	五四〇
昭和十九年	七月	九四〇
昭和二十年	七月	一一二〇
昭和二十年	七月	一三二〇
昭和二十年	七月	一五二〇

無制限トス

備考 一本定額ハ儲備分トス

九教育

衛生教育ハ兵團任務ノ特性將兵ノ素質駐屯地ノ衛生環境及作戰ノ様相等ニ鑑ミ重兵的教育ニ徹シ且計画的教育ヲ最モ重視シ萬難ヲ排シ一評他ノ課目ヲ犠牲トスルモ本教育ノ徹底ヲ期セリ

兵團ハ昭和十九年六月昭和十九年度衛生教育企画ヲ策定シ爾后教育年度毎由初ニ於テ當該年度教育計画ヲ策定シ企一的重兵的教育ノ實施徹底ヲ圖リ屢々集會教育實施セリ

各部隊又兵團教育企画ニ則リ自隊衛生教育計画ヲ策定シ之カ教育徹底ヲ圖レリ

衛生教育實施概要左ノ如シ

一 兵科幹部教育

兵團兵科幹部ハ大部召集者ナルニ鑑ミ符衛生教育ハ特兵科幹部ノ衛生識能ノ向上ト衛生實施熱意ノ昂揚ニ重兵ヲ指伺シ主トシテ保養自防疫防瘧救急等ノ徹底ニ努メ屢々集會教育ヲ實施シ之カ徹底ヲ期セリ

(前頁或・京集)

(三) 兵科兵教育

個人衛生及救急法ノ徹底ニ重ク置キ個人衛生ニ関シテ部隊附軍醫
將校ノ煩ヲ厭ハス頻回衛生講話ヲ實施シ且幹部ノ監視監督
ト共ニ之ヲ徹底ラ圖リ救急法ハ戰場立員相ニ鑑ミ暗夜ニ於テモ
的確ニ實施シ得ル如ク手技ノ演練ヲ重ネ各部隊長ノ教育査覈
ヲ實施シ効果發揚ヲ期セリ

(三) 衛生部員教育

ノ軍醫將校

兵團軍醫將校ノ全員ヲ召集者ニシテ軍醫予備員出身初級
將校大部ヲ占メ軍事ノ經驗ニ乏シク素質低級ナルニ鑑ミ軍事
學及本務教育ニ重ク指シ屢々集合教育及課題作業
等ニ依リ研鑽練磨ニ努メシム

衛生下士官又大部ヲ召集者ニシテ且下士官教育ヲ受ケタルモノ

少ク素質一般ニ因級ナル鑑ミ專ラ實務教育ニ重兵ヲ指何
 シ律令教育及課題作業等ニ依リ識技能ノ練磨向上期セリ
 3 衛生兵

本務補備教育努メ識技能ノ向上ヲ圖レリ

(四) 特種教育

衛生掛將校教育

各隊衛生掛將校ニ對シテハ主トシテ健兵對策防疫對策等ニ

関スル教育ヲ實施シ施策ノ遂行ニ專ラ寄與ハセシム

2 防疫工作班長教育

防疫工作班長ニ關スル専門的事項ノ識技能ヲ賦與シ施策ノ

徹底ヲ圖レリ

兵團ニ於ケル集合教育狀況左表ノ如シ

集合教育狀況表

課	昭和十九年度	昭和二十一年一度
目	被教育者教育期間	被教育者教育期間

(秘密)

防瘧教育	軍醫將校	一回	三日	軍醫將校	一回	三日
健兵対策防疫	衛生掛將校	一回	三日	軍醫將校	一回	三日
疫理検査	衛生下士官	一回	三日	衛生下士官 (初任者)	一回	三日
実務教育	軍醫將校	一回	三日	衛生下士官 (初任者)	一回	三日
全						

陸軍

1707

附表第一

計	其他		白兵創		爆創		砲創		銃創		區分	自昭和十九年五月 至昭和十九年五月 戰死傷者發生表
	戰傷	戰死	戰傷	戰死	戰傷	戰死	戰傷	戰死	戰傷	戰死		
	五	一八		一		一	二	三	三	三	頭部	
	二	三		一			一		一	二	頸部	
	二	二七						三	二	二四	胸部	
	一	一六						二	一	一四	腹部	
	一八				四		二		二	二二	上肢	
	三	一			二		三		一	二七	下肢	
		一								一	損傷	
	二	二					一			一〇	其他	
	五二	七七	一	二	六	二	九	八	三七	六四	計	

陸軍

1709

附表第一二

計	其他		自來創		爆創		砲創		銃創		區分	自昭和十九年十一月 至昭和二十年八月十日 戰死者發生表
	戰傷	戰死	戰傷	戰死	戰傷	戰死	戰傷	戰死	戰傷	戰死		
七	一六			一	二	二			一三	一	頭部	
	四							一	三		頸部	
二	一九								一	一	胸部	
四	一四					三		一	一〇		腹部	
三〇		二			七		一		二〇		腕部	
三一	三				四	一	五		三	二	下肢	
											其他	
四	七		一					二	四	二	其他	
一七	六三	二	一	一	三	八	六	四	五七	四九	計	

陸軍

昭和十九年
昭和二十年
昭和二十一年
病類別患者表

病類別	初患總數	治癒	死亡	轉院	送率	別	破後	遺	陸軍	
									陸	軍
赤痢	三三		一		三二					
腸チフス	三七		三		三四					
パラチフス	七				七					
發疹チフス	一				一					
瘧疾	一				一					
其他傳染病	二				二					
マラリア	一三五	一〇五八			五三	一〇			一〇五	
結核	一七				一七					
脚氣	七六	六三			五				八	
其他全身病	三三〇	三〇一	二		二				一三	
神経系病	一三二	一〇〇			七				九	
胸膜炎	三七	一一			三				一	
氣管支炎	二八一	二四四			一六				二一	
其他呼吸器病	二七九	二五五			七				一六	
急性胃腸炎	五二	四六八			一一				三〇	
其他營養器病	四七三	三八七	二		六五				九	
泌尿生殖器病	三〇	二三			七					
花柳病	一一	六			五					
眼病	四二	三七			四				一	
耳病	三九	三六			四					
疥癬	九四	八八							四	
其他外役病	二四六	三三〇			九				一七	
運動器病	三四	二九			二				三	
外傷及不慮	一九三	一五四	二		一六				二	
戰傷	一二九	一八	七		三四					
其他	六三七	一六〇	三		三五二				一三二	
計	四七八六	三五四八	九〇		七三五	二四			三九九	

(納谷典・京東)

昭和十九年十一月
昭和二十年一月
痲類別患者表

計	其他	戰傷	外傷及不慮	運動器痲	其他、外役痲	疥癬	耳痲	眼痲	花柳痲	泌尿生殖器痲	其他、榮養器痲	急性胃腸炎	其他、呼吸器痲	氣管支炎	胸膜炎	神經系痲	其他、全身痲	脚氣	結核	マラリア	痘瘡	其他、傳染痲	發疹チフス	パラチフス	腸チフス	赤痢	痲類別		總數	新患總數	治癒	死亡	轉送	事後後遺			
																											旧患	患者									
400	133		21	3	17	4	9	1			19	30	16	21	1	9	13	8		155								105	1765	17	1604						
6505	709	141	231	34	333	258	58	46	14	65	534	810	476	330	33	99	375	99	17	1765	4		1	6	23	14	105	1765	17	1604							
5501	343	14	204	33	306	236	48	43	3	54	487	792	453	344	10	93	346	88																			
74	4	63	4																																		
734	357	63	15	4	13	5	9	3	9	9	48	9	18	26	23	8	6	4	16	40	4	1	6	23	14	105	1765	17	1604								
7																																					
589	137	1	29		21	21	0	1			18	39	19	21	1	7	36	13		230																	

(箱谷貞・京東)

陸軍

季訂

		品		月		第幾		隊		衛生材料調書	
軍臨	縮	隨	品	月	第幾	隊	衛生材料調書	第九師戰備先隊	增	隊	
携	帶	療									
帶	帶	療									
囊	囊	囊									
〃	〃	具									
三	三	六									
四	三	六									
四	三	六									
四	三	七									
一	三	一									
一六	一四三	一六									

(前谷 貞・京東)

1716

部隊裝備用衛生材料調書

獨立混成第八旅團

陸軍

品目	部隊										計	
	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十		
醫療囊	九	四	四	五	六	四	五	四	四	四	三	三
繙帶囊	八	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
担架	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
隊醫板	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
軍醫携帶囊	六	四	二	三	一	三	二	三	二	三	二	二
衛生機	三	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
患者自動車	五											
瓦斯治療囊	二											
乙												
計	三	八	五	二	三	一	三	七	八	三	九	三

